

Interview

DAITO 代表取締役 井上 滋樹 氏



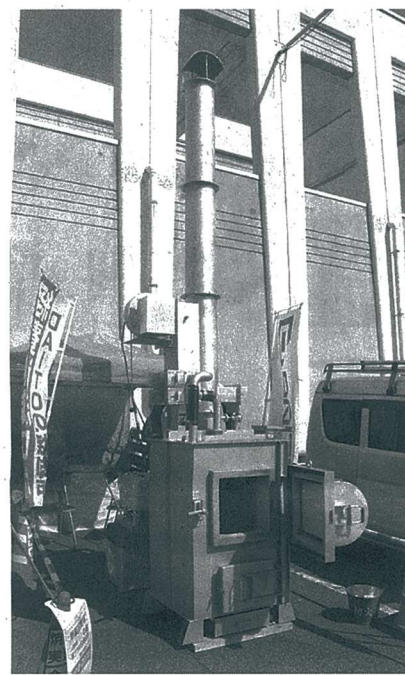
コスト削減、機密保持目的に導入増加

事業活動の中で必ず発生する廃棄物……。クリーン焼却システムメーカーのDAITO(愛知県豊瀬戸市)は小型焼却炉によるオンサイト処理を提案する。井上滋樹社長に、最近の受注状況と製品展開の考え方について話を聞いた。

「今年1月にDAITO 自治体への設置届出が不要な販売から社名を変更しました。小型焼却炉。工場や事務所まで増収増益を毎年続けてきた。2010年以降、おかげさまで増収増益を毎年続けてきた。2010年以降、おかげさまで増収増益を毎年続けてきた。2010年以降、おかげさまで増収増益を毎年続けてきた。」

質と量に応じた焼却炉選定

震災の復興に向けて当社製品の引き合いも増えています。そのような中で、一層の飛躍と業界でのシェアアップを目指し、このたび社名を「DAITO株式会社」としました。焼却炉を持つメリットは、



今年3月に発売した腐プラ用新型モデル「SP II」(写真=広島どてらい市)

「場所によっては、焼却炉の設置自体に難色を示される場合もあります。以前は比較的安価で、煙が多少出ても大量に燃やせるタイプが人気でした。しかし、焼却時に発生する煙や臭いは、周辺住民が不快に思われる原因となります。その問題を解決するためにも、燃やすものの性質や量に応じた炉の選定が重要です。インターネット経由で売れる場合、書類、ペットボトルなど、燃やすものに合わせて焼却炉のラインアップを取り揃えています。」

「近年引き合いが増えているのは、黒煙が出やすいプラスティックに特化したタイプです。今年3月に発売したばかりの腐プラ対応進化系モデル「SP II」は、エアのバランスを見直し、燃焼効率を引き上げました。集塵室の小型化で設置スペースを減らしながら、消煙と塵の飛散を従来品と同等レベルに抑えたのも特長です。本体と投入扉のすきまから出る未燃焼ガスを大幅にカットするため、導入事例は限られませんが……。焼却炉自体、直接利益を生む設備ではないため、購入の優先順位も後ろになりがちです。しかし、現場で処理することによって、廃棄物の保管スペースや処理コストが減り、機密情報を守ることができます。製品の機能面も含めて「安心・安全」を伝えていければと考えています。」